令和六年度

龍谷大学付属

平安中学校入学試験問題

国語

解答上の注意

一. この問題用紙は「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
二. 答えはすべて解答用紙の決められたところに書きなさい。
三. 解答用紙の決められたところに受験番号を書きなさい。氏名を書いてはいけません。
四. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
五. 問題内容についての質問は受けません。
六. 印刷が読みにくいときは手をあげて監督者を呼びなさい。
七. 「やめ」の合図があったら解答用紙をおもて向け、問題用紙を解答用紙の上に置いて、回収が終わるまで席を離れてはいけません。（問題を持ち帰ることができません）

受験番号

A1

IIII

一　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

たくさんのものを用意しておく「多様性」。これが自然界に生きる生物の戦略である。

私たち人間も多様性は重要だと知っている。個性が大事だとも思う。

ところが、問題がある。

人間の脳には限界がある。そのため、人間の脳は、自然界に起こる［A］なものを、できるだけ［B］化することで理解する仕組みを発達させてきた。

そのため、人間の脳は、本当は［A］なものが苦手なのである。

※第3章でも述べたが、そんな人間の脳が大好きなことの一つが、①線を引いて区別することである。

たとえば、虹は紫色から赤色までの※グラデーションである。しかし、それでは気持ちが悪いから、途中で線を引いて区別をして、虹は七色と決めている。そうすれば、虹を認識しやすいし、絵で描くときも描きやすくなる。線を引いて区別することで扱いやすくなるのだ。

何の境目がない大地にも、自分の土地とそうでない土地に境界を作る。市町村の境を作り、都道府県の境を作り、国と国の境も作る。「地球出身の地球人です」というより、「私は日本人で、あなたはアメリカ人」だとか「私は東京に住んでいて、大阪を旅行してきました」と言うほうがわかりやすい。こうして区別することで、人間にとってはわかりやすくなり、扱いやすくなるのだ。

「区別すること」は、人間の脳が理解するために人間が作り出した仕組みである。

（　中略　）

※他にも、人間の脳が好きなことがある。

先にも書いたようにそれは比べることだ。

たとえば動物だって、比べることはある。

サルであれば、二つの果物を比べて大きい方を食べることもあるだろうし、二つの枝を比べて、より近い方に跳び移るということもあるだろう。

しかし、果物は二つを並べてみなければ比べにくいし、枝までの距離は、枝の数が多くなると、どれが近いか、わからない。

そこで人間は、よりよく比べるために、②すごいものを発明した。それが「ものさし」と「数字」である。

基準となるものさしがあれば、遠く離れた果物でも比較することができる。さらには、数字で表わせば、さまざまな果物の大きさを比べることができる。

この「ものさし」と「数字」は、とても便利である。「ものさし」と「数字」の発明によって、人間の脳は、自然界のあらゆるものを理解することが可能になり、文明や文化を発達させることができるようになった。

もう人間にとって、「ものさし」と「数字」は、手放すことのできないものだ。

これさえあれば、何でも理解することができる。

少なくとも、「ものさし」と「数字」さえあれば、人間はわかった気になることができるのである。

私たち人間の世界は、線を引き区別をし、ものさしと数字で比べることで作られた。

こうして、私たちは発達をしてきたのだ。

一方、自然界の生物はばらつきたがる。均一にそろってしまうと、全滅してしまう恐れがあるからだ。答えのないものには、たくさんの選択肢を用意しておきたい。それが、生物の戦略である。だから、

③生物は努めてそろわない。

ロボットのように、同じものばかりが作られるということはない。

野菜は植物だから、大きいダイコンや小さいダイコンができる。太いダイコンも細いダイコンもある。長いダイコンも短いダイコンもある。

【1】

だから人間は、ダイコンの大きさをそろえようとする。

そして、同じ大きさのダイコンを作り、同じ大きさのダイコンを箱詰めして、同じ値段をつけて野菜売り場に並べるのである。

生物は多様性を求めてばらつきたがるのに、人間は均一を求めてそろえたがるのだ。【2】

もっとも、野菜は人間が守ってくれるから全滅するようなことは起きにくい。

野菜にとっては、人間が求めるものが「答え」である。【3】

そのため、人間の品種改良や栽培技術にしたがって、均一にそろうような性質を発達させている。

【4】野菜たちは、それでいい。

しかし、他にも人間の作りだした世界の枠組みに合わせて暮らしている生物がいる。

その一種が［C］である。

［C］も生物だから、ばらつきたがる。そして、個性もある。

しかし、［C］の脳はそろえたがる。

多様性が大事だ、個性が大切だとわかっているつもりでも、本当は個性なんかない方が理解しやすいと脳は感じている。

だから、［C］の個性はやっかいなのだ。

個性はどのように生み出されるのだろうか。

この個性を生み出すものが遺伝子である。

遺伝子は、両親から授かるものだ。

子どもと親とが寝相がそっくりなことがある。親が教えてもいないのに同じようなしぐさを見せることがある。

自分が大好きだったものが、「死んだおじいちゃんも好きだった」と言われて、驚くこともある。

自分固有のものだと思っていても、やはり遺伝子は祖先から引き継いだものなのだ。

運動会にそなえて一生懸命練習してもいつもビリな人と、何の練習もしていないのに、もともと走るのが速い人がいる。

暗記しようと苦労しても、ぜんぜん覚えられない人と、「知らない間に覚えちゃう」と、※のたまう人がいる。

ほとんどが遺伝子のなせる業だ。

遺伝子には逆らえない。

私たちが悪いのではない。すべては祖先から受け継いだ遺伝子が悪いのだ。

とりあえずは、すべて遺伝子のせいにしてしまおう。

［I］、足の遅い遺伝子なのに、それに逆らうことはやめにしよう。

暗記できない遺伝子なのに、無理に逆らうこともやめにしよう。

全部、遺伝子が悪いのだ。

それでは、すべての努力は無意味なのだろうか。

もちろんそうではない。

遺伝子とは何だろう。

それは冷蔵庫の中身のようなものだ。

冷蔵庫の中にキャベツが入っている人もいる。入っていない人も

いる。

冷蔵庫が詰まっている人もいるし、冷蔵庫に少ししか入っていない人もいる。

Ⅱ、問題なのは冷蔵庫の中身ではない。

それで、どんな料理を作るかだ。

冷蔵庫にキャベツが入っていなくても、ケーキを作るのであれば、何の問題もない。カレーライスだって作ることができる。お好み焼きを作りたいと強く望めば、キャベツ抜きではお好み焼きを作れずに、悩み苦しむかもしれない。ただそれはお好み焼きを作ろうとするのが悪いのだ。カレーライスを作って、デザートにケーキを作れば良いだけの話だ。

Ⅲ、冷蔵庫の中にたくさん物が入っていれば良いというものではない。たくさん入っていれば何でも作ることができるかもしれないが、料理を作るときに必要な食材は、限られているからだ。たくさん入っていると、何を作れば良いか悩んでしまうかもしれないし、使わない食材も多い。問題なのは、食材の量ではないのだ。

冷蔵庫の中身が決まっているのであれば、悩んでも仕方がないような気がするかも知れない。悩み苦しんで努力をしてみても、冷蔵庫の中身が増えるわけではないからだ。

しかし、そうではない。

じつは冷蔵庫の中に何が入っているかは、誰にもわからない。

冷蔵庫を開けて、料理を作ってみないとわからないのだ。

※レシピを見て材料をそろえてみたときに、食材が足りないことに気がつくかもしれない。料理を作り始めてから、材料が足りないことに気がつくかもしれない。

しかし、料理を作り始めないと、どんな食材があるのかわからない。だから、色々な料理をとりあえず、作ってみる必要があるのだ。

学校でたくさんの勉強やたくさんの経験をしなければならない理由が、まさにそこにある。

自分の冷蔵庫には何が入っているのか。何ができて、何ができないのかを見極める、それがさまざまなことを勉強する理由なのである。

学校で習うことは好きなことも嫌いなこともある。簡単にできる得意なことも、努力してもなかなかできない苦手なこともある。それでも、やってみなければ、わからない。勉強するということは、④冷蔵庫の中身を見てみるということなのだ。

（稲垣栄洋　『ナマケモノは、なぜ怠けるのか？』）

※（文中のことばの意味）

第３章でも述べたが　…　本文より前の第３章に同内容の記述がある。

グラデーション　…　色合いの段階的な変化。

先にも書いたように　…　本文より前に同内容の記述がある。

のたまう　…　おっしゃる。「言う」の尊敬語。

レシピ　…　料理の作り方を書いたもの。

問1 Ⅰ〜Ⅲにあてはまることばの組み合わせとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　Ⅰ　そして　　Ⅱ　しかし　　Ⅲ　もちろん
イ　Ⅰ　ゆえに　　Ⅱ　ところで　　Ⅲ　たとえば
ウ　Ⅰ　さらに　　Ⅱ　ゆえに　　Ⅲ　すなわち
エ　Ⅰ　ところで　　Ⅱ　そして　　Ⅲ　なぜならば

問2 A・Bにあてはまることばの組み合わせとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　A　複雑　　B　単純
イ　A　無効　　B　有効
ウ　A　困難　　B　容易
エ　A　異常　　B　正常

問3 ――線①「線を引いて区別すること」とありますが、そうすることの利点を、文中から二十三字でぬき出しなさい。句読点なども字数に数えます。

問4 ――線②「すごいものを発明した」とありますが、それにより人間はどのようになりましたか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　遠く離れた果物の大きさを比較し、果物の重さも表現できるようになった。
イ　自然界の全体を認識し、文明や文化を進歩させられるようになった。
ウ　文明や文化に影響を与えることができ、自然を理解した気になった。
エ　大自然のことはだいたいが理解でき、何でもわかった気になった。

問5 ――線③「生物は努めてそろわない」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　生物は比べることで発達してきたので、均一になると発達できず滅亡するから。
イ　生物は均一になろうとすると、不都合なことが起きて全滅してしまうから。
ウ　生物は一つがだめになっても、他のものが生き残れば絶滅する可能性が低いから。
エ　生物はロボットのように、同様のものばかり制作されることで破滅に向かうから。

問6　文中から、次の一文がぬけています。どこにあてはめるのがふさわしいですか。文中の【1】～【4】から一つ選び、数字で答えなさい。

しかし、人間の世界ではそれでは不便である。

問7　C にあてはまることばを、文中から二字でぬき出しなさい。

問8　――線④「冷蔵庫の中身を見てみるということ」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　苦手なものでも、努力だけで乗り越えていくこと。
イ　できることと、できないことを見分けること。
ウ　レシピを見て、不足した材料をそろえていくこと。
エ　どんな食材があり、どんな料理を作るか決めること。

問9　――線「自然界に生きる生物の戦略である」とありますが、これについて述べた生徒の発言の中で、本文の内容に照らして、**ふさわしくない発言**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　生徒A：生物は自然環境に適応し生き残るために、かたちを変え、進化をしてきたんだね。
イ　生徒B：図書館で調べたら、実は同じように見えるメダカでも、地域ごとに遺伝子型が異なるそうよ。
ウ　生徒C：実は暑い地域のウサギと比べて、寒い地域のウサギの方が、耳が小さい傾向にあるんだって。
エ　生徒D：そう考えていくと、自然環境の保護のためにも、多様性は最も重要といえるわけだね。

問10 ～～線「冷蔵庫の中に何が入っているかは、誰にもわからない」とありますが、次は本文を読んだ花子さんとお父さんの会話です。あとの問いに答えなさい。

花子「『冷蔵庫の中に何が入っているかは、誰にもわからない』と書いてあるけれど、これは、自分にどのような［x］があるのかは、自分自身でもわからない、ということかしら。」

父「そうだね。その［x］を見極めるため必要なことは何だと筆者は考えているかな？」

花子「努力して、［y］や［z］をたくさんする、ということよね。」

父「その通り。だから、学校で学ぶことは大切なんだね。」

(1) ［x］にあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 希望　イ 適性　ウ 将来　エ 人格

(2) ［y］・［z］にあてはまることばを、文中からそれぞれ漢字二字でぬき出しなさい。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「なんや、また ⓐ気が重そうな顔して」

朝食にみそ汁やら焼き鮭やらを並べながらばあちゃんが言った。

「胃が痛いんだ」とおなかを押さえて答えるぼくに、「そこ、胃じゃなくて腸や」とばあちゃんが笑った。

小学校卒業と同時に、ぼくはばあちゃんの家に引っ越してきた。転勤が多い父さんは新しい住まいを探すのはもったいないと、ばあちゃんの家での同居となったのだ。父さんもパートで働く母さんも朝早くから仕事に出てしまうから、朝ごはんから夕方まではばあちゃんと二人だ。

「転校なんて、明生、慣れたもんやろ。それに今回は中学入学と同時なんやし、ちょちょいのちょいや」

「中学入学って言ったって、だいたいみんな小学校からの仲間なんだ。簡単にいくわけないだろ」

「そんなん言うたら、ばあちゃんなんか、こないだ※パッチワークの展覧会を乗り切ったと思ったら、再来週にはフラダンスの発表会や。次々と［　I　］がやってくる」

ばあちゃんはそう言うと、勢いよくみそ汁を飲んだ。

小学校で二回、それに今回。ぼくは通算三回も引っ越しをしている。「父さんの仕事の都合」、それだけの理由で、遊び慣れた場所とも気が合う仲間とも、あっさりさよならだ。ぼくら子どもは、意思と関係なく無理難題をふっかけられる。好き勝手にやっている①パッチワークやフラダンスといっしょにされちゃ困る。

「いつまでもぼそぼそ食べてんと、おなか痛いんやったら、梅干し食べとき」

ばあちゃんはぼくの皿に梅干しを載っけると、片づけのために立ちあがった。捻挫に頭痛に腹痛。ばあちゃんは何でも梅干しでよくなると思っている。

「おはよ」とつぶやきながら教室に入ると、同じようなぼそりとした反応が返ってくる。中学生活が始まって三週間。ぼくにはまだ友達と言えるものはできていない。小学校の時はもう少し簡単だったはずなのに、なかなかうまくいかない。

「今日も曇りやな。じいちゃんが花曇りって言ってたけど、四月は意外と天気悪い日が多いねんな」

座席に着くと、となりの川口君が声をかけてきた。川口君は毎朝、先生が来るまでの間話しかけてくる。けれど、それはいつだってうまくつながらない。

「あ、ああ。そうなんだ」

それで会話は終了。川口君もぼくもさっきより ⓑ空気を持て余して、窓の外を見つめるしかなくなってしまう。

「これで桜が全部散ってしまうな」と言えばよかったとか、「花曇りって何？」と聞けばよかったとか。思いつくのは後になってからだ。晴れることを放棄したようなぼやけた空に、②ぼくは今日も生ぬるい息を吐いた。

「こっちこっち、パス」

か細い雨が降っているせいで、今日の体育はバスケットボールだった。まだなじんでない仲間とのチーム競技は、なかなか厄介だ。だけど、ぼくはバスケットは得意だった。③今日はなんとかなるかもしれない。ぼくは俊敏に体を動かした。敵のボールをカットすると、わっと歓声が起こった。チャンスだ。はやる気持ちを抑えて、ドリブルしながら辺りをうかがう。ゴール下には何人かいるけど、左にずれた山崎君の前だけぽかりと空いている。ここだ。ぼくはねらいを定めて、するどいボールを送った。いいパスだったはずだ。ところが、山崎君の手に当たって、ボールはぽとりと落ちた。今日もわずかなとっかかりはするりと抜け落ちていった。

【「④いいねえ、子どもは。ぼんやりしとっても、やることが転がってくるんやから」
明日の野外学習用に向けてお菓子を買うお金をくれるように頼むと、ばあちゃんはうらめしそうに言った。
「別に行きたくないけど……」
ぼくはばあちゃんがくれた小銭を手にしてつぶやいた。
「お菓子買いに行こうや」
「駅前に新しくできたスーパーな。あそこなら安いし」
今日の放課後、何人かの男子で盛り上がっていた。「ぼくも行こうかな」そう言うすき間はいくつかあって、間もあった。でも、声は出なかった。入学式から何度かのきっかけをやり過ごしていく中で、ハードルは高くなるばかりだった。
「いってらっしゃい、気をつけてな」
ばあちゃんは「大人は待っとっても何もやってきてくれんから、探さんとあかんわ。次は何しようかな」と地域の文化教室のお知らせを見ながらぼくを見送った。
Ⅱ、ぼくは駅とは反対方向の小さな駄菓子屋に向かった。「いらっしゃい」と眼鏡をかけたおじいさんがかすれた声で言うのに、「どうも」と軽く頭を下げながら、お菓子を探す。ⓒこの期におよんで、みんなと交換しやすい物がいいな、なんて考えてしまう自分が情けない。
「ここにも売ってるんだ」
いくつかお菓子をかごに入れたぼくは、なつかしいパッケージを見つけ手に取った。昔よく食べたかたい梅干しのお菓子。父さんが好きだったせいで、ぼくは幼稚園のころから気に入って食べては、すっぱいのにと周りを驚かせていた。でも、これじゃだれも欲しがらないよな。そう思って⑤棚に戻そうとすると、
「お、俺もそれ買おうと思っててん」
と声が聞こえた。毎朝聞いている声だ。振り返ると、川口君がいた。
「宮下君も、梅干しのお菓子、好きなんや」
と聞かれて、ぼくは「すっぱいけどね」とうなずいた。
「せやねん。すっぱいのに俺はじいちゃんが好物やから、しょっちゅう食べてる」
「ぼくも小さいころから食べてた」
「そうなんや」
「うん。そう」
「そっか」
教室の外で会ったって、相変わらずぼくらの会話はたどたどしい。
「……えっと、明日の野外学習にこれ、持っていこうかな」
とどこおりそうな空気をふっ切るように、ぼくが梅干しのお菓子をかごに入れると、
「ああ、俺も。つかれた時、梅干し食べるとええって言うし」
と川口君も手に取った。
川口君とぼくはいつもと同じようにぎこちない。ついでに、店を出ると最近続いているぼんやりとした花曇りだ。でも、ぼくが手に提げた小さなふくろの中には⑥あまずっぱい梅干しがちゃんと入っている。】

（瀬尾まいこ『花曇りの向こう』）

※（文中のことばの意味）
パッチワーク …さまざまな色や形や大きさの布をぬい合わせて一枚の布を作る手芸。

問1 〰〰線ⓐ～ⓒのことばについて、文中における意味として、最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ⓐ 気が重そうな

ア はりきっていた気持ちが急にしぼむような
イ 寝不足で頭がぼんやりしたような
ウ いやなことがありそうで心が晴れないような
エ 責任が重くて自信を無くすような

ⓑ 空気を持て余して

ア 空気をうまく吸えず息苦しくて
イ 場の雰囲気をうまく取りあつかえなく困って
ウ やる気がそがれてしまい落ち込んで
エ 感情が高ぶり自分の気持ちを抑えられなくて

ⓒ この期におよんで

ア この後
イ 最期に
ウ このたび
エ 今さら

問2 [I]にあてはまる語句として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 娯楽　イ 困難　ウ 行事　エ 仕事

問3 ――線①「パッチワークやフラダンスといっしょにされちゃ困る」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 気の合う仲間とだけ遊ぶことを、趣味でやっている「パッチワークやフラダンス」と比べられても、子どもの立場からすればどうしようもないから。
イ 生活してきた場所や大切な仲間と何度も別れなくてはならないことは、趣味でやっている「パッチワークやフラダンス」の忙しさとは違い、もっとつらいことだから。
ウ 胃が痛いのをがまんして朝ご飯を食べなくてはならないことを、趣味でやっている「パッチワークやフラダンス」と同じように考えて、あまく見てほしくないから。
エ 父さんや母さんの仕事は、趣味でやっている「パッチワークやフラダンス」の発表会の忙しさとは、比べ物にならないくらい大変なことだから。

問4　――線②「ぼくは今日も生ぬるい息を吐(は)いた」とありますが、この時の「明生」の気持ちはどのようなものですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　となりの席の川口君との会話が今日もうまくつながらなくて、友達になるきっかけをまた逃(のが)してしまったとやりきれなく思う気持ち。
イ　となりの席の川口君からはいつも自分と同じようなぼそりとした反応しか返ってこなくて、この人とは友達になれないだろうというあきらめの気持ち。
ウ　となりの席の川口君の言う「花曇り」の言葉の意味が分からずそれが気になっていて、こんなことならあの時に教えてもらえばよかったと後悔する気持ち。
エ　となりの席の川口君に十分な返事ができず会話が続かないにもかかわらず、毎日話しかけ続けてくれることに申しわけなく思う気持ち。

問5　――線③「今日はなんとかなるかもしれない」とありますが、何が「なんとかなる」のですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　仲直りをすること。
イ　ヒーローになること。
ウ　仲間を作ること。
エ　勝負に勝つこと。

問6　――線④「いいねえ、子どもは。ぼんやりしとっても、やることが転がってくるんやから」とありますが、それと比べて大人の場合はどうだと言っていますか。文中から三十一字でぬき出し、はじめと終わりの五字で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問7　［　Ⅱ　］にあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ばあちゃんに後をつけられるといやだから
イ　新しくできたスーパーは行ったことがないから
ウ　駄菓子屋の方が安くてたくさん買えるから
エ　スーパーにはみんながいるかもしれないから

問8　「明生」が学校での出来事を回想している部分があります。その部分を文中の【　】の中からぬき出し、はじめの五字で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問9 ――線⑤「棚(たな)に戻(もど)そうとする」とありますが、なぜですか。それを説明した次の文の［A］・［B］にあてはまることばを、文中から指定された字数でそれぞれぬき出しなさい。

［A 九字］お菓子を持っていても、［B 六字］できないから。

問10 ――線⑥「あまずっぱい梅干し」の「あまずっぱい」という表現に込められた「明生」の気持ちを説明したものとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　駄菓子屋で「川口君」に会い、たどたどしいながらもいつもより長く会話が続き、まだまだ安心できないがこれからの仲間づくりに少し期待を抱く気持ち。

イ　得意の「バスケットボール」をきっかけにクラスのみんなと仲間になろうとしたが、「山崎君」にわざとボールを落とされ、それを思い出しまだ苦々しく思う気持ち。

ウ　「川口君」との会話で話がはずみ、「梅干し」さえあればみんなと仲良くなれることを確信し、今までのつらさから解放されるのだとしうれしい気持ち。

エ　新しい学校で仲間を作るチャンスは何度かあったが、今回もたどたどしい会話しかできなくて、仲間を作ることはむずかしいと改めて思う気持ち。

三　次の①～⑤にあてはまる漢字をあとから一つずつ選び、それぞれ漢字を書きなさい。また、⑥～⑩にあてはまる意味を、あとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

・言語［①］断　意味：（　　⑥　　）
・絶［②］絶命　意味：（　　⑦　　）
・［③］心伝心　意味：（　　⑧　　）
・心［④］一転　意味：（　　⑨　　）
・日［⑤］月歩　意味：（　　⑩　　）

【漢字】
異・以・意・進・新・信・対・帯・体
同・動・道・機・気・器

【意味】
ア　進退きわまった、場面や立場であること。
イ　お互（たが）いに言葉に出さなくても、気持ちが通じること。
ウ　時間とともに、ものごとが発展していくこと。
エ　言葉では表現できないくらい、ひどいこと。
オ　あるきっかけで、気持ちが良い方に変わること。

四　次の――線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

① 王様のケライ。
② 銀行にヨキンをする。
③ 合格して親の恩にムクいたい。
④ 地球温暖化はセツジツな問題だ。
⑤ 犯人の罪をサバく。
⑥ 名画を模写した絵。
⑦ 徳川家康に仕える。
⑧ 鬼（おに）のような形相をしている。
⑨ けがの功名。
⑩ 車窓から見える景色。

これで問題は終わりです。